

利根の竜神

潮来市

今から千年以上昔の話です。水の豊かな水郷でも、利根川や霞ヶ浦の水も枯れ果てるほど国中が干ばつに襲われました。常陸国では国府(現在の石岡)に名だたるお坊さんを数百人集め、雨乞いを行いました。雨は一向に降りませんでした。

そのころ、潮来にト竜はくりゅうという貧しいお坊さんがいました。家々を回っては食べ物乞いました。邪険にされるばかりで、村人の甚兵衛さんがいつも食べ物分けていました。ところが、その甚兵衛さんの家でもついに干ばつで食料が尽きてしまいました。甚兵衛さんは

「我が家でも、今日で米も水もなくなってしまう。今、最後のご飯を用意しますね」

と、一碗のご飯を炊いてト竜にさし出しました。

黙って食べ終えたト竜は、突然、甚兵衛さんにこう言いました。

「甚兵衛さん。私は利根川の竜神です。これまで長い間お世話になりました。これから天に帰りますが、親切な甚兵衛さんや村人達を、このままうえ死にさせるわけにはいきません。せめてものお礼に私が雨ごいをいたしましょう」



甚兵衛さんは大層驚きましたが、「ト竜さんの言葉はありがたいが、これは天災だからもう諦めているよ」

と力なく言いました。しかし、ト竜は食い下がり

「いえ、諦めてはいけません。私が祈れば確実に雨を降らせることができます。どうか、村の人たちと川岸に高いやぐらを組んでください」と言うのです。

甚兵衛さんは村長や村人を説得して、やぐらを組んでもらうと、やぐらの上で、ト竜が西の空に向かってお経を詠み始めました。

「川を穢けがし、水を汚した人々への天罰とはいえ、人々の苦しむ姿をこれ以上見るに堪たへない。水郷に雨を降らせ給え」と吼えるように祈るト竜の姿に、これまでト竜を邪険にしていた人々も目を見張りました。

そして、その声が村人の耳に残る間に、西空から黒雲が押し寄せ、大粒の雨が降り出しました。村人は抱き合って喜ぶと、ト竜に伏して拝みました。

やぐらの上に稲妻が走るとト竜の姿は光り輝きました。

「利根川や霞ヶ浦の水を穢けがさず、水の尊さを知れ」と言い、「甚兵衛よ、さらば」と告げると、ト竜の姿は消え、竜が天に昇っていきました。

(参考文献)水郷民俗研究会「潮来の昔話」(伝説)



「運ぶ」を支え、地域社会を笑顔にする

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <https://www.ibaraki-isuzu.co.jp>

※次回は7月31日(日)に掲載予定です。